

ランキング：2位

明桜私

①秋田市②春5回(2勝5敗)夏9回(6勝9敗)③中川申也(元阪神)、小野仁(元巨人ほか)、攝津正(ソフトバンク)、木村優太(元ロッテ)、砂田毅樹(DeNA)など④ノースアジア大、東北福祉大、富士大、青森大、法政大など

オールドファンには改称前の秋田経法大付という校名の方が馴染みがあるかもしれない。昭和の終わりから平成にかけて黄金期を迎えたが、勢いが衰えた時期もあった。2009年夏に13年ぶりの甲子園行きを決めたが、その後、監督交代が相次ぐ。しかし、2011年以降で5人目となる輿石重弘監督が2017年春に就任すると、「前向きな言葉を発する」といったプラス思考をチームに浸透させ、いきなり夏の秋田大会を制した。体制が落ち着き、名門復活に期待がかかる。両翼95m、中堅122mの野球場に人工芝の室内練習場、一人部屋の寮と環境は整っている。

ランキング：1位

秋田商公

①秋田市②春6回(8勝6敗)夏18回(10勝18敗)③高山郁夫(元西武ほか)、石川雅規(ヤクルト)、佐藤剛士(元広島)、成田翔(ロッテ)など④青山学院大、桐蔭横浜大、流通経済大、東北福祉大、仙台大、新潟医療福祉大など

2012年に7年ぶりの甲子園出場を果たすと、2013年に連覇。2015年はロッテ・成田翔を擁して甲子園8強入りした。グラウンドは学校の隣にあり、専用球場にロッカールームが付いた室内練習場がある。遠方で自宅から通えない部員は下宿する。甲子園初出場は1925年夏。以降、定期的に代表となり、小野平氏が監督を務めた1995年から2008年には打力を磨いて春夏7回、甲子園に出場した。現在は秋田商一青山学院大とヤクルト・石川雅規とバッテリーを組み、2002年からコーチ、2008年から指揮を執る太田直監督が伝統校を率いている。

ランキング：4位

金足農公

①秋田市②春3回(1勝3敗)夏8回(6勝8敗)③小野和幸(元西武ほか)、足利豊(元ダイエーほか)、佐川潔(元巨人ほか)、石山泰稚(ヤクルト)④ノースアジア大、青森大、富士大、東日本国際大、流通経済大など

1972年から通算34年間、指揮を執った嶋崎久美監督が作り上げたチームは「雑草軍団」と呼ばれ、今なお、その伝統を受け継いでいる。春3度、夏4度の甲子園出場に導いた嶋崎監督はバントやスクイズを多用するスタイルで、冬の田沢湖合宿などで体力と精神を鍛え上げた。初出場の84年夏はKKコンビのPL学園に2対3で惜敗したがベスト4。嶋崎監督は2012年3月で退任。2015年からは90年のセンバツに選手として出場した中泉一豊監督が指導する。今夏は10年ぶりに決勝進出。「粘り強く、金農らしく」と、目指すは2007年以来の甲子園だ。

ランキング：7位

大曲工公

①大仙市②春1回(1勝1敗)夏1回(0勝1敗)③なし④専修大、横浜商科大、富士大、仙台大など

2015年のセンバツに初出場すると、2016年夏に初めて秋田の頂点に立った。つながりのある打線は、日本三大花火大会の一つに数えられる名物の花火大会になぞらえて「花火打線」と称される。秋田南から秋田大へ進んだ阿部大樹監督は機械科教諭として1994年に赴任。以来、異動がなく、96年から20年以上、監督を務めている。監督の右腕となっているのがOBの木曾雄太トレーナー兼コーチ。盛岡大付など甲子園常連校でトレーナー経験を積んだ。部員は大仙市内や隣の横手市などから多く通う。2017年2月には新しい室内練習場が完成した。